

日本古生物学会 2024 年年会・総会

2024年6月21日（金）～6月23日（日）

高知大学 朝倉キャンパス

※座長は調整中です.

* * * * * 1. プログラム 概要 * * * * *

6 月 21 日（金）会場：高知県民文化ホール

- 【13:00–17:00】 シンポジウム「中生代・新生代底生軟体動物研究の新展開」…………… iii
- 【17:10–18:40】 総会…………… iv
- 【19:00–21:00】 懇親会（高知会館）（要事前申込）…………… iv

6 月 22 日（土）会場：高知大学朝倉キャンパス共通教育 2 号棟 A–C 会場

- 【09:30–10:30】 特別講演 A 会場
鏑本 武久「古第三紀を中心とした陸棲哺乳類化石の記載研究」…………… v
- 【10:45–11:35】 ポスター発表コアタイム 1（ポスター会場）…………… v
- 【11:35–12:25】 ポスター発表コアタイム 2（ポスター会場）…………… vi
- 【12:25–13:25】 ランチョン小集会 1, 2（A, B 会場）…………… viii
「日本古生物学会の一般社団法人化について」（A 会場）
「古生物学（者）が絶滅しないようにするには？」（B 会場）
- 【13:40–14:30】 ポスター発表コアタイム 3（ポスター会場）…………… ix
- 【14:45–15:45】 一般講演 口頭発表 1（A–C 会場）…………… xi
- 【16:00–17:00】 一般講演 口頭発表 2（A–C 会場）…………… xii
- 【17:10–17:25】 ポスター賞表彰式（A 会場）…………… xii
- 【17:35–19:05】 夜間小集会（B 会場）…………… xiii
「微古生物学を今一度せんたくいたし申候」（B 会場）

6 月 23 日（日）会場：高知大学朝倉キャンパス共通教育 2 号棟 A–C 会場

- 【09:30–10:30】 一般講演 口頭発表 3（A–C 会場）…………… xiv
- 【10:45–11:45】 一般講演 口頭発表 4（A–C 会場）…………… xv
- 【12:00–13:30】 ランチョン小集会 3
「令和 6 年能登半島地震に関する調査報告会」（B 会場）…………… xv
- 【13:45–14:45】 化石友の会講演会（A 会場：どなたでも参加可・参加無料）…………… xvi

発表方法と機器についての注意事項など（必ずお読みください）	xvi
その他会場案内など	xvii

2024 年年会参加費：一般会員 6,000 円，学生会員 2,000 円，友の会会員 1000 円，
一般非会員 7,000 円，学生非会員 3,000 円，名誉会員・高校生以下無料

2024 年年会への参加は事前登録制です。 参加される方は，講演の有無に関わらず，以下のサイトにアクセスして，参加登録とクレジット決済を行ってください（名誉会員，高校生以下は参加登録のみ）。

<https://my-site-108813-105460.square.site/>

参加登録を行うと受領メールが送られますので，**参加者はそのメールかそれを印刷したものを会場の受付に提示して下さい。** 受付で確認の上，領収書兼用の名札を渡します。

* * * * * 2. プログラム 詳 細 * * * * *

6月21日（金） 【13:00-17:00】 高知県県民文化ホール

シンポジウム「中生代・新生代底生軟体動物研究の新展開」

コンビナー: 近藤康生(高知大)・延原尊美(静岡大)・佐野晋一(富山大)

趣旨：軟体動物は中生代および新生代を代表的する分類群であり、関連する研究は、記載・分類、タフォノミー、古生態、機能形態、絶滅・進化など、古生物学のほぼ全領域にわたって展開されてきている。今回のシンポジウムは、(1) 古生物地理を中心とした中生代二枚貝類と、(2) 現生を含めた新生代後期の二枚貝類・腹足類の微細殻成長に関わる研究を中心とし、その他、新たに展開しつつある研究事例も含めて、広く中生代・新生代底生軟体動物研究の新展開を紹介する場としたい。

(1) 中生代二枚貝類の古生物地理は、長らく北半球のデータを中心として Hallam, Kauffman らによって総括されてきた。我が国でも、田村 実、速水 格らによって、日本の材料を中心に二枚貝類の古生物地理が論じられ、この分野の発展に大きく貢献してきた。一方、21 世紀以降、Damborenea らの研究によって南米のデータが加えられ、南半球、およびグローバルな古生物地理とその変遷の全体像が明らかになってきた。また、東アジアを代表する、白亜紀の淡水生二枚貝であるトリゴニオイデス類についても、新たな手法や視点を導入することにより、分類や古生態に関する画期的な成果が得られつつある。これらの研究成果は、中生代・新生代の底生軟体動物を俯瞰的に理解する上で必須の情報と言える。今回は、南米のサンカクガイ類の分類や古生態、古生物地理、また、太平洋域の新情報を加えたルディストの分類や古生物地理についての知見にもとづいて、中生代の底生軟体動物、特にその古生物地理を再検討する。さらに、トリゴニオイデス類を中心とした、手取層群産淡水生二枚貝化石研究の最新トピックを、技術的な面も含めて紹介する。

(2) 二枚貝類の微細殻成長については、我が国では 1980 年代以降、ハマグリ、カガミガイなど、干潟に生息する現生内生二枚貝をモデル生物とした研究が続けられてきており、微細殻成長の詳細や、おもに完新世の古環境復元への応用が行われてきた。また、アイスランドガイのような長寿の現生二枚貝殻を歴史時代の古環境アーカイブとして活用する流れも国内外で定着している。このように、軟体動物の微細殻成長に関わる研究は、生物学・水産学など、むしろ古生物学分野外で進展してきたとも言える。近年、現生種の化石や絶滅種への展開が進み、生活史を含めた古生態、絶滅・進化、更新世・鮮新世の古環境など、伝統的古生物学分野の研究も活発になってきた。特に、現生種とその祖先種のペアについて、微細殻成長の比較を安定同位体比分析と組み合わせて行うことにより、季節変動や水塊特性、生活史までを視野に入れた高精細な古環境復元が展開しつつあり、現生種出現の背景に迫ることが可能となってきた。今回は、このような試みをイタヤガイ類、トリガイ属、タマキガイ類、シラスナガイ類、キサゴ類などについて紹介し、今後の研究の展開についても展望したい。

- 13:00-13:10 シンポジウムの趣旨:近藤康生(高知大)
- 13:10-13:35 Systematic revision of South American Trigoniida (Mollusca, Bivalvia) and its palaeobiogeographical implications: the key role of the Japanese faunas: Javier Echevarría (ラプラタ博物館)
- 13:35-14:00 太平洋域の化石記録から見たルディスト(厚歯二枚貝)の系統分類と古生物地理の新展開:佐野晋一(富山大)
- 14:00-14:25 恐竜はどんな色彩の二枚貝を見ていたのか:手取層群産淡水性二枚貝類の事例:安里開士・中山健太郎(福井恐竜博)・今井拓哉(福井県大・恐竜研:福井恐竜博)
- 【14:25-14:40】 —休憩—
- 14:40-15:05 微細殻成長から読む化石二枚貝類の生活史: *Pecten* 属の例:近藤康生(高知大)
- 15:05-15:30 現生種二枚貝とその祖先種の比較研究:タマキガイとトリガイの事例:山岡勇太(埼玉県立自然の博物館)
- 15:30-15:55 殻成長からみた鮮新世以降のキサゴ類の古生態: 中山健太郎(福井恐竜博)・近藤康生(高知大)
- 【15:55-16:10】 —休憩—
- 16:10-16:35 シラスナガイ科二枚貝の分類と生息場の再検討〜深海性二枚貝の種多様化モデル〜:延原尊美(静岡大)
- 16:35-17:00 総合討論

【17:10-18:40】 総会

【19:00-21:00】 懇親会 (高知会館)

懇親会は予約制です。参加を希望される方は、必ず事前に下記の懇親会申込用Google Formにて、6月7日(金)までにお申し込みください。参加をキャンセルする場合も6月7日(金)までにご連絡をお願いします。

場所:高知会館2F「白鳳」(高知市本町5-6-42) (<https://kochikaikan.jp/access/>)

行き方:「県庁前」電停, すぐ南。

会費:学生以外 7,000円, 学生 4,500円 シンポジウム・総会会場の受付にて現金でお支払いください(シンポジウム・総会への出席が叶わずに直接懇親会会場に行かれる方は懇親会会場入り口で懇親会費をお支払いください)。

申込先(Google Form; 右のQRコード):



https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfqUAaZBH70buULgU1ac5m8YcL8UA9g-JZmJqSAeZs_Vibawg/viewform?vc=0&c=0&w=1&flr=0

お問い合わせ先:池原 実(ikehara●kochi-u.ac.jp:「●」を「@」に置き換えてください。)

6月22日（土）会場：高知大学朝倉キャンパス共通教育2 号棟 A-C会場

【09:30-10:30】 A 会場

特別講演 鏑本 武久 「古第三紀を中心とした陸棲哺乳類化石の記載研究」

【10:30-10:45】休 憩

【10:45-11:35】ポスター発表 コアタイム1（ポスター番号末尾 A）

- H01-A 高橋絢子・三輪 環・森川歩人・山田渉太 岐阜県美濃加茂市の瑞浪層群から産出したサイ類化石
- P02-A 佐野瑞穂・河部壮一郎・藤原慎一 アノールトカゲの近位尾骨および大腿骨形態とエコモルフの関係
- P05-A 菅原里佳・田中康平 系統比較法を用いた絶滅した恐竜類胚の体重推定法の確立
- P08-A 岡村太路・前田将輝・西村双葉・依田 憲 姿勢安定性からみる鯨類における背ビレの前適応の可能性
- P13-A 幸地 佑・河部壮一郎・今井拓哉・柴田正輝・星野真人・上杉健太朗 イグアナドン類（鳥脚類）上顎における歯への栄養供給経路の解析
- P16-A 金紀新・河部壮一郎 有蹄類における末節骨の内部血管神経管形態と爪形態との関係性
- P19-A 塙 東子・一島啓人・田中裕一郎・山田 桂 秋田県能代市の鮮新統から新たに産出したヒゲクジラ類化石
- P22-A 中島保寿・宇都宮聡・森田直樹・小泉 櫻・守岡聖真・神藤修大 鹿児島県長島町獅子島の白亜系御所浦層群における 爬虫類化石を含む複数の非海成ボーンベットの発見
- P25-A 小西卓哉・三宅優佳・對比地孝亘・御前明洋・小松俊文 甌島列島に分布する上部白亜系姫浦層群から産出した海生爬虫類化石
- P27-A 世羅拓真・楠橋 直・平山 廉・町田悠輔 岩手県久慈市の上部白亜系久慈層群から産出した多丘歯類
- P30-A 坂根広大・桑原祥平・河部壮一郎 板橋区立教育科学館に展示されている *Triceratops* 標本について
- P33-A 宮田和周・藺田哲平・中山健太郎・安里開士・蘇 綾・静谷あてな・河部壮一郎・服部創紀 福井県立恐竜博物館の「化石研究体験」ができるまで
- P35-A 高橋美羽・近藤康生・谷井春希・池原 実・栗原行人 更新統長沼層産絶滅種カズネイタヤと現生イタヤガイの季節的殻成長パターンの比較
- P38-A 板倉義空・小竹信宏 下部三畳系稲井層群大沢層の堆積環境とタフォノミー
- P41-A 桃崎瑛弘・前田晴良・大山 望・野原政典・高橋文雄 上部三畳系中塚層から産出したアンモノイド化石の追加標本

- P44-A 内藤真生・伊藤泰弘 福岡県大牟田市の始新統万田層群勝立層から産出したオキナエビス科化石の分類学的再検討
- P46-A 森 愛・高津琴博・佐野晋一 福井県九頭竜地区上半原層産イノセラムス上科 "*Inoceramus*" *maedae* の靱帯形状と系統分類上の意義
- P49-A 伊藤颯真・近藤康生・高月崇成 鮮新統穴内層産フジノハナガイ科貝類 2 種に関する分類学的検討
- P52-A 吉原桃果・千徳明日香・田村丈夫・長澤祥太郎・清水啓介 ライブイメージングを用いたシャミセンガイの骨格微細構造観察
- P55-A 白水菜南子・千徳明日香・玉代勢彩伽・筒井英人・山脇信博・森井康宏 アシナガサンゴにおける固着物の選択制と生活様式
- P58-A 守川翔太・江崎洋一・竹田裕介・岸田明生・足立奈津子・刘建波・伊庭靖弘 カンブリア紀サンゴ *Cambroctoconus* の内部構造の三次元復元 -隔壁構造の特徴的な形成様式-
- P61-A 水野愛理・ジェンキンズロバート 熱水エビ *Rimicaris kairei* の消化管構造およびその内容物
- P64-A 桑野太輔・亀尾浩司・佐川拓也 石灰質ナノ化石群集に基づく北西太平洋海域の表層海水温と一次生産の復元
- P67-A 上野智広・岩谷北斗・鈴木克明・板木拓也・清家弘治・中野太賀 トカラ列島宝島西方海域の完新世貝形虫群集の時系列変化
- P70-A 高木悠花・関根 真 温暖化応答の理解に向けた浮遊性有孔虫光共生系の飼育実験

【11 : 35-12:25】ポスター発表 コアタイム 2 (ポスター番号末尾 B)

- P03-B 森田直樹・中島保寿 イメージスキャナーを用いた新たな骨断面観察法
- P06-B 中山晃輔・藤原慎一 食肉類における摂食様式と運動様式の相互作用
- P09-B 村山志揮・福原 洸・佐藤たまき・William Sellers・石黒章夫 体幹姿勢の揺動を考慮した首長竜の前後ヒレ間協調運動様式の構成論的検証
- P11-B 海野 奏・水野凌輔・佐野晋一 有尾目両生類の現生生痕学的研究
- P14-B 真貝人和・柴田正輝 イグアノドン類の歯骨歯に見られる乳頭状突起の形態的特徴
- P17-B 浦田倫太郎・小松俊文・鏑本武久・對比地孝亘・三宅優佳・山下大輔 甌島列島の古第三系上甌島層群中甌層から産出した脊椎動物化石と堆積環境
- P20-B 浅井勇馬・林 昭次・澤村 寛・新村龍也・安藤達郎 北海道釧路市阿寒の中新統殿来層より産出した *Paleoparadoxia* 頭蓋標本に関する考察
- P23-B 守岡聖真・中島保寿 モロッコ上部デボン系から産出した 捕食性大型軟骨魚類化石の分類及び体サイズ推定

- P26-B 小泉 櫻・中島保寿 宮城県の下部三疊系平磯層ボーンベッドから産出する脊椎動物化石群集
- P28-B 吉田恩・田中康平・高津翔平・Akhmadjon Ahmedshaev タジキスタン北西部ラバット地域より産出した ジュラ紀中期の恐竜類足跡化石の分類学的再検討
- P31-B 豊 大翔・鏑本武久・堀 利栄 愛媛県松山市道後姫塚の上部白亜系和泉層群産 *Squalicorax* 属(サメ類)の化石
- P34-B 生野賢司・清水純夫・和田和美・田中公教・池田忠広 電動歯ブラシを転用した化石剖出機器の開発
- P36-B 長谷川慶悟・近藤康生・吹本 樹・池原 実 石川県金沢市に分布する更新統北陸層群大桑層産イタヤガイ *Pecten albicans* の微細殻成長・酸素同位体分析による生活史 および水温環境復元
- P39-B 相場大佑・望月貴史 岩手県洋野町に分布する上部白亜系種市層より産出した軟体動物 (アンモナイト類・イノセラムス類) 化石
- P42-B 佐藤正梧・前田晴良・伊藤泰弘・大山 望 九州大学総合研究博物館に寄贈された 松井祥高コレクション (中部ジュラ系綱木坂層産アンモノイド化石)
- P45-B 酒井佑輔・中山健太郎・安里開士 福井県大野市の九頭竜層群貝皿層より産出した中期ジュラ紀海生二枚貝化石群集
- P47-B 關 明日香・ジェンキンズ ロバート 北海道小平町に分布する上部白亜系から産した化学合成貝類を含む化石沈木群集の発見
- P50-B 吉村太郎・岸本卓大・中原行健・大野 望・幺振鐸・羽山元晶・高橋英俊・大宮正毅・佐々木猛智 微細構造の配列と貝殻の力学的挙動：軟体動物と腕足動物に共通する「内平外垂」の原則
- P53-B 長澤祥太郎・千徳明日香・久高幸也・清水啓介 腕足動物の殻に表在生活するイソギンチャクとその付着様式
- P56-B 岸田明生・江崎洋一・竹田裕介・守川翔太・足立奈津子・劉建波・伊庭靖弘 カンブリア系スロンボライト中の隠棲空間の広がりと言ゴ群体の密接な関係
- P59-B 柳原彩里・田中源吾 スウェーデン南部エイラム頁岩層中から産出した節足動物 *Trapezites minimus* の古生態
- P62-B 小郷瑞貴・鈴木雄太郎・平野広大 暗い軟泥底適応形態：大きな複眼と広い anterior arc を備える *Nileus armadillo*
- P65-B 河端康佑・池田昌之・狩野彰宏・藤林 恵・仙田量子・齊藤諒介 パンサラッサ海北西沿岸におけるトアルシアン海洋無酸素事変 (T-OAE)の海洋光合成生物応答の光合成色素からの証拠
- P68-B 黄木陽人・小松俊文・高橋 修・辻野泰之・穴井千里 北海道古丹別地域に分布する白亜系蝦夷層群羽幌川層の放散虫化石層序

P71-B 堀 利栄・岡本 隆・楠橋 直・鏑本武久・下岡和也・世羅拓真・豊 大翔・炭 元裕・道後姫塚学術調査プロジェクトチーム 愛媛県道後姫塚の白亜系和泉層群黒滝層産化石の総合調査報告(1)

【12:25-13:25】ランチョン小集会 1 A 会場

日本古生物学会の一般社団法人化について

世話人: 日本古生物学会法人化検討委員会

趣旨: 近年の社会情勢から, 法人化している学術団体が多くなってきている. 任意団体として活動している日本古生物学会も将来的に法人化したほうがよいのか, 法人化の意義やメリット・デメリットについて法人化検討委員会で議論をしている. 古生物学会の活動を持続, 発展させていくためにも, 会員の皆様と意見交換を行いたい.

【12:25-13:25】ランチョン小集会 2 B 会場

古生物学(者)が絶滅しないようにするには?

—古生物にかかわる方々の多様性を高めるためには—

世話人: 丸山啓志(千葉中央博)・泉賢太郎(千葉大・教育)・荻野慎諧(和歌山県有田川町)・黒須球子(TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校)・佐野瑞穂(古生物学若手のための会)

趣旨: この数年, 社会情勢が大きく変化し, 古生物学をとりまく状況も変化している. また, 日本における少子高齢化問題等も深刻なものとなっている. このような背景の下, 絶滅を取り扱う古生物学(者)が絶滅しないようにするには, 古生物に対する関係人口(古生物コミュニティ)の多様性を高め, 裾野を広げるとともに, 生き残り戦略を練る必要がある.

このランチョン小集会では, 古生物コミュニティの様々な層に対して, どのようにアプローチしているか, 世話人(丸山・泉・荻野)から三者三様の話題提供を行い, 現状について振り返る. 次に, 学生・ポスドクを中心に参加者から生の声を募り, 生き残り戦略に関わる現状の課題について検討する. そして, 今後の古生物コミュニティの発展について意見交換を行い, 参加者間の交流を図りたい.

*この小集会の内容の一部は, 科研費 22K01021 の助成を受けた.

※お昼ご飯を持って, 食べながら, 誰でも気軽にご参加できます.(飛び入り参加歓迎, 途中入退場自由)

【話題提供】

- ・丸山 啓志: 「大学博物館・地域おこし協力隊・県立博物館での経験を踏まえて」
- ・泉 賢太郎: 「生物学系・教育学系機関での経験を踏まえて」
- ・荻野 慎諧: 「古生物学の応用手段: 産学官連携, 一人でやってみました」

【総合討論】

今後の古生物コミュニティの発展について意見交換を行い, 参加者間の交流を図る.

【13:25-13:40】 休憩

【13 : 40-14:30】 ポスター発表 コアタイム 3 (ポスター番号末尾 C)

- P01-C 丸山啓志 怒られないための古生物学で用いる化学物質関連法規まとめ
- P04-C 今井 悟・新野 大 飼育水槽内におけるイズヒメエイ (アカエイ科) の 索餌・摂食行動とその生痕の予察的観察
- P07-C 荻野慎諧・山根勝枝 愛媛県今治沖海底で発見されたオオカミ頭骨化石
- P10-C 安藤佑介・楓 達也・北川博道・合田隆久・甲能直樹 瑞浪層群宿洞層産パレオパラドキシア瑞浪釜戸標本の研究
- P12-C 石垣 忍・B. マインバヤル・B. ブヤンテグシュ・實吉玄貴 モンゴル国ゴビ砂漠中央部 Yagaan Khovil 地域の 上部白亜系から産出した恐竜足跡化石群
- P15-C 新村龍也・澤村 寛 北海道津別町から産出した中新統の鰭脚類化石のクリーニング
- P18-C 孫 正涵・卓 義揚・廖 翊如・張 鈞翔・蔡 政修 台湾マンモスホロタイプの再発見
- P21-C 對比地孝亘・小松俊文・Hung D. Dinh・楠橋 直・Hung B. Nguyen・Minh T. Nguyen ベトナム・ソンラ省に分布する上部三畳系ソイバン層産出の 爬虫類上腕骨化石
- P24-C 吉澤和子 魚竜形類の四肢骨形態の系統網羅的な定量解析
- P29-C 宮田真也・門田真人・西岡佑一郎・樽 創 伊豆半島の中新統湯ヶ島層群から産出したハリセンボン科化石
- P32-C 廣瀬浩司・黒須弘美・鶴飼宏明・小松田麦子・篠原宏一・黒田教昭 御所浦恐竜の島博物館の古生物学者を疑似体験する ワークシートについて
- P37-C 田中源吾・西村智弘 上部白亜系函淵層より産出した介形虫化石群
- P40-C 久保貴志・安藤寿男 生息姿勢を保持した中新統迫層 (宮城県丸森町) の *Crassostrea gravitesta* 標本から推定されるリレー型生態
- P43-C 近藤洋一・澤村 寛 ナウマンゾウ (*Palaeoloxodon naumanni*) の下顎第 2 大臼歯における時代的変異
- P48-C 三本健二 高知県の鮮新統登層の原鰓類 (二枚貝)
- P51-C 加藤久佳・柄沢宏明・Peter K. L. Ng 江戸時代に記載された日本初の“化石種”*Arges parallelus*
- P54-C 千徳明日香・荒殿匡也・田中如樹・長澤祥太郎・白水菜南子・吉原桃果・神座森・徳田悠希 *Heteropsammia cochlea* の形態及び分類系統解析

- P57-C 足立奈津子・守川翔太・佐野晋一・江崎洋一 和歌山県由良地域に分布する鳥巢石灰岩（上部ジュラ系～最下部白亜系）から産する厚歯二枚貝礁の特性と形成環境
- P60-C 御前明洋・加納 学 穿孔性フジツボ類の穿孔痕を伴う白亜紀後期イノセラムス類とその古生態学的意義
- P63-C 辻本 彰・嶋池実果・佐藤七海・石垣 璃・瀬戸浩二・入月俊明 中海における現生底生有孔虫の分布とその要因の検討
- P66-C 岡崎裕典・村中美樹・木元克典・林 辰弥 270-250 万年前の北大西洋高緯度域における浮遊性有孔虫群集組成変化
- P69-C 新山颯大・坂本華穂・神谷隆宏・田中源吾 鹿児島県種子島の浅海性介形虫相とその生物地理学的特徴
- P72-C 早出 雄司 乱数シミュレーションによるフィッティングモデル評価

【14:30-14:45】 休憩

【14 : 45-15 : 45】 一般講演 口頭発表 1 (A-C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎の部 1 座長:	古海洋の部 1 座長:	進化・軟体動物の部 1 座長:
A01 犬塚則久 拮抗筋のない筋の作用からみた起源と進化	B01 松岡 篤・LI Xin・CHIARI Marco・BERTINELLI Angela ジュラ・白亜系境界 GSSP の有力候補である Bosso Valley セクションにおける放散虫研究の進展状況	C01 吉田勝彦 多様性が減少傾向にあるクレードは大量絶滅で絶滅しやすいか？
A02 宮本佳苗・藤原慎一 側方型四肢動物の手足の回旋機構	B02 鈴木寿志・石田昂汰朗・石田啓祐・Volker Diersche・岩野英樹・檀原徹・平田岳史 ジュラ紀新世キンメリッジ期-ティトン期境界付近の放散虫群集	C02 吉村太郎・平野尚浩・齊藤 匠・石寄美乃・佐藤英明・遠藤一佳・佐々木猛智 微細構造からマクロ進化へ：多様化した貝殻の進化経路をたどる
A03 久保孝太・小林快次 白亜紀中頃の恐竜類・コエルロサウルス類における後肢形態の平行進化と走行適応	B03 前川 匠・James F. Jenks ネバダ州 Crittenden Springs に分布する下部三畳系ディンウッドィー層から産出したコノドント化石	C03 松原尚志・近藤康生・鹿納晴尚 高知県宿毛地域に分布する百笑層の後期暁新世-前期始新世貝類化石群
A04 今井拓哉・服部創紀・河部壮一郎・柴田正輝・東 洋一 手取層群北谷層から産出した, Paraves の前肢骨化石	B04 山北 聡・高橋 聡・武藤 俊 中・後期三畳紀 Ellisonia 科 (コノドント) の多要素分類—特に <i>Cornudina</i> と <i>Chirodella</i> の関係について—	C04 佐々木猛智・松原尚志・伊藤泰弘・天野和孝 横山又次郎標本の現在

【15:45–16:00】 休憩

【16:00–17:00】 一般講演 口頭発表 2 (A–C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎の部 2	古海洋の部 2	古環境の部 1
座長:	座長:	座長:
A05 石川弘樹・佐藤英明・奥田花也・對比地孝亘・ダニエル L. ブリンクマン 獣脚類の遊離歯に保存された“咬み跡”の記載とその古生物学的解釈	B05 板木拓也 効率的な放散虫スライド作成に向けたワークフローの構築	C05 村宮悠介・御前明洋・三上智之・吉田英一・勝田長貴・前田晴良 殻化石が炭酸塩コンクリーションの形成と形状に与える影響
A06 平山 廉・久保 泰・久保麦野 岩手県久慈層群玉川層カメ類の甲板に関する新発見	B06 守屋和佳・吉崎嘉乃 白亜紀／古第三紀境界を通じた浮遊性有孔虫の絶滅と回復	C06 片田はるか・吉田英一・大路樹生 下部中新統師崎層群から産出する深海魚化石の鉱物学的・地球化学的特徴の多様性：例外的な化石保存プロセスについての検討
A07 岩寄広大・河村 愛・河村善也・張鈞翔・三田村宗樹 台湾台南市菜寮地域産の第四紀哺乳類化石研究の現状と課題	B07 上栗伸一・松崎賢史 後期中新世以降におけるインド洋セーシェルドームの変遷史	C07 北村晃寿 熱海土石流の発生源の盛土に関する地球科学的調査と 相模湾に流出した土石流の影響調査
A08 北川博道・山岡勇太 化石研究と文化財 2 -古秩父湾の取り組み-	B08 野牧秀隆・小島茂明・宮入陽介・横山祐典・CHEN Chong 放射性炭素および安定同位体比を用いた冷湧水化学合成生物群集の炭素窒素源推定	C08 泉 賢太郎 深海堆積物中に共産する生痕化石 <i>Phymatoderma</i> と <i>Zoophycos</i> に記録された形成生物の摂食行動に関する理論的考察

【17:00–17:10】 休憩

【17:10–17:25】 ポスター賞表彰式 (A 会場)

【17:35-19:05】夜間小集会 B 会場

微古生物学を今一度せんたくいたし申候

世話人:氏家由利香（高知大），野牧秀隆（JAMSTEC），岡崎裕典（九州大）

趣旨：微化石および微化石となる生物群は，古生物学に留まらず，地球科学・生命科学の多様な分野で活用され，古生物学会でも盛んに研究発表がされてきた．昨今の技術革新，多様な専門家らの参入によって，地球化学面では殻骨格や有機物質の微小領域の高精度分析が進められ，生命科学面では分子生物学的手法による研究が加速し，その生理生態面から殻形成や環境応答を理解することが可能になってきた．本小集会では，これら先鋭的な研究分野から3名の話題提供者のお話を交え，有機的に連携することにより古生物学・古生態学・古環境学が新境地へ飛躍できるよう，幅広い分野の研究者・学生の皆さんと討論したい．

話題提供：3名（石村豊穂，石谷佳之，山田洋輔），自由討論

6月23日（日）会場：高知大学朝倉キャンパス共通教育2 号棟 A-C会場

【9:30-10:30】一般講演 口頭発表 3（A-C 会場）

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎の部 3	古海洋の部 3	古環境・古生態の部
座長:	座長:	座長:
A09 世羅拓真・楠橋直・三宅優佳・新山颯大・對比地孝亘・小松俊文 鹿児島県下甕島の上部白亜系姫浦層群から産出した多丘歯類	B09 石谷佳之・Caterina Ciacci・氏家由利香・野牧秀隆・Fabrizio Frontalini 有孔虫による環境影響評価：ナノプラスティックの毒性は何に起因するか？	C09 森野善広 高知県物部地域美良布層に含まれる下部白亜系鳥巢式石灰岩の岩相・生物相とその水平変化
A10 半田直人・富谷 進 古琵琶湖層群上野層から産出した鮮新世食肉目化石（予察）	B10 木下峻一・橋本優里・黒柳あずみ・鈴木 淳 高アルカリ度環境は酸性化した海水で石灰化生物が十分な成長をみせる要因となりうるのか	C10 安藤寿男・田口翔太・平宗雄 相馬中村層群中ノ沢層（上部ジュラ系：キンメリッジャン）の 鳥巢二枚貝群のタフォノミーと群集特性
A11 青塚圭一・福嶋 徹・樽創 上総層群連光寺層より産出した化石の再検討	B11 木元克典・山崎 誠・脇田昌英 黒潮流域に生息する浮遊性有孔虫の殻密度：30年でどう変わったか	C11 吉永亘希・重田康成・前田晴良 御所浦層群の上部アルビアン階より産出する白亜紀アンモノイド <i>Desmoceras</i> の分類学的研究
A12 西岡佑一郎・日下宗一郎・小林 淳 高知県佐川町の完新世の洞窟堆積物と哺乳類遺骸群集の新知見	B12 久木田健悟・氏家由利香 浮遊性有孔虫における共生藻遺伝子型構成の夏季冬季間の比較	C12 田近 周・Anastasia Rashkova・Neil H. Landman・Adiel A. Klompmaker 上部白亜系マーストリヒチアン階 Fox Hills 層から産出するアンモナイト <i>Hoploscaphites nicolletii</i> の殻に保存された捕食痕

【10:30-10:45】休 憩

【10:45-11:45】一般講演 口頭発表 4 (A-C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎の部 4	古海洋の部 4	古植物・古環境の部
座長:	座長:	座長:
A13 久保 泰・久保麦野・平山 廉・鵜野 光・伊藤 愛・久慈琥珀博物館 上部白亜系久慈層群玉川層から産出するワニ類化石の分類	B13 井熊一翠・氏家由利香 浮遊性有孔虫遺伝子型の殻形態による検出	C13 ルグラン ジュリアン・西鼻聖人・山田敏弘 静岡県西部の下部白亜系伊平層産の植物化石から推定される古植生と古環境
A14 宇佐美航大・久保麦野・久保 泰・ダニエラ ウィンクラ・平山 廉・鵜野 光・久慈琥珀博物館 歯牙マイクロウェア三次元形状分析を用いた 久慈層群玉川層産出のワニ類の食性推定	B14 西田 梢・田中健太郎・佐藤 圭・樋口恵太・漢那直也・杉原奈央子・白井厚太郎・石村豊穂・岩橋徳典・永井清仁・弓場茉裕・石川彰人 二枚貝の貧酸素応答：アコヤガイの垂下実験を例に	C14 矢部 淳・鴨井幸彦 新潟県佐渡島の“阿仁合型”関植物化石群（漸新-中新世）より産出した <i>Cyclocarya</i> 属（クルミ科）果実・葉化石とその意義
A15 松本涼子 オオサンショウウオ科の特異な捕食様式と顎の形態進化	B15 吹本 樹・近藤康生・圓谷昂史・鈴木明彦・池原 実 北海道の中部更新統馬追層産ホタテガイの殻成長特性	C15 小松俊文・重岡孝之・渡辺正幸・岩切雅志・ルグラン ジュリアン・山田敏弘 鹿児島県薩摩川内市に分布する下部白亜系久見崎層から産出した 大型化石と微化石
A16 山北 聡・高橋 聡・武藤 俊 「付着面＝筋痕」仮説に基づくコノドントエレメントの機能形態論		

【11:45-12:00】休 憩

【12:00-13:30】ランチョン小集会 3 B 会場

令和 6 年能登半島地震に関する調査報告会

世話人: 北村晃寿・Robert G. Jenkins

趣旨: 2024 年1月1日 16 時 10 分に石川県能登地方でマグニチュード 7.6 の地震(令和 6 年能登半島地震)が発生し、家屋の倒壊、火災、土砂崩れ、液状化、津波、地盤隆起などが引き起こされた。本小集会では、能登半島地震による津波等の調査を行った本会会員などが集まり、古生物学的・堆積学的観点・地形学的観点から得られた情報を報告する。これらの情報は、将来、高知県も被災する南海トラフ巨大地震への防災意識を高めるために役立つと期待される。

- ・趣旨説明 趣旨説明と会員の震災調査紹介（北村）
- ・Robert G. Jenkins 「九十九湾における潜水調査結果 鯨骨と礫デューン」
- ・海野 奏・立石 良・佐野晋一 「富山湾南縁域と能登半島における水中ドローンと魚群探知機を用いた海底地形・堆積物調査」

- ・佐川拓也 「珠洲市沿岸の浅海域に見られた津波堆積物」
- ・山田昌樹 「能登半島北東岸の陸上に残された津波堆積物」
- ・北村晃寿 「地震性隆起と津波堆積物の調査速報」
- ・意見交換

【13:30-13:45】休 憩

【13:45-14:45】化石友の会講演会 A 会場

「超マニアックジオツアーのご提案 ～土佐清水ジオパークで生痕化石巡りの旅～」

今井 悟さん（島根県立三瓶自然館サヒメル）

- ・友の会会員に限らずどなたでも無料でご参加いただけます（受付あり）。

***** 3. 発表方法及び機器についての注意事項など *****

<口頭発表をされる方へ>

【重要！】口頭講演はパソコン等持参です！貸出はありません.

- 接続端子は、HDMIかD-Sub15ピン（VGA）の2種類のみです．それ以外の端子の場合はご自身で変換アダプターをお持ち下さい．
- WiFiはEduroamのみ利用できます．
- あらかじめ休憩時間などに接続状況を確認して下さい．講演時には接続作業時間も含まれます．
- プロジェクター画面は原則として4：3画角となります．
- デュアル・ディスプレイ設定のノートパソコン（普段、外部モニターと併用しているノートパソコンなど）は、シングルモニタに切り替えてください．
- パソコン等の接続・操作は、発表者ご自身でお願いします．
- 一般講演の口頭発表時間は15分です（質疑応答、使用機器の接続時間含む）．

<ポスター発表をされる方へ>

- ポスターのサイズはA0（横841 mm × 縦1189 mm）が基本です．一発表につき、指定されたボードを1枚ご利用ください．
- ポスター会場は2号館3階231教室ならびに3階ホールです．貼り付け場所は当日にご確認ください．
- ポスターは6月22日（土）の9:00から貼ることができます．また、23日（日）の12:00までに各自撤収して下さい．はがしたポスターはお持ち帰りください．
- ポスター掲示用の画鋸やテープ類は会場で用意します．ボードの種類によって利用可能な留め具が異なります．必ず指定に従ってください．

<会場及び発表方法・機器に関する問い合わせ先>

（「●」を「@」に置き換えてください）

- 開催実行委員：奈良正和（nara●kochi-u.ac.jp）Tel: 088-844-8495
- *メール件名「古生物学会 2024 年年会・問い合わせ」

<その他>

- ご来場について：公共交通機関をご利用ください。
- シンポジウム・総会は高知県立県民文化ホールのグリーンホールで行います。「とさでん交通*」の路面電車「県庁前」電停下車、徒歩2分です。
- 一般講演は、高知大学朝倉キャンパス共通教育棟で行います。JR土讃線*「朝倉」駅下車、徒歩7分、あるいは、とさでん交通「朝倉（高知大学前）」電停下車、徒歩4分です。
- *とさでん交通では高知県内各社対象の「ですか」しか使用できません。SUICA, ICOCA などの他社 IC カードは使用できません。JR土讃線では交通系 IC カードは使用できません。以上ご注意ください。
- 標本展示等希望者：奈良正和（nara●kochi-u.ac.jp）へ6月7日（金）までにメールにてご相談ください（●を@に置き換えて送信願います）。詳細をお知らせします。メール件名は「古生物学会 2024 年年会・展示」でお願いします。希望数によってはお断りすることもございます。予めご容赦ください。
- WiFi：Eduroam のアカウントをお持ちの方は利用出来ます。それ以外の用意はございません。
- 懇親会について：本プログラム iv ページ参照。
- お食事：シンポジウム・総会会場（県民文化ホール）は、ホール・客席内での飲食はご遠慮ください。
- 一般講演会場 A, B, C, 休憩室はいずれも飲食可能です。
- 6月22日（土）：大学生協のカフェテリアが営業します（11:00～14:00, 17:00～18:30）。キャンパス周辺には、食堂のほか、コンビニエンスストアやスーパーマーケットもあります（ローソン 高知朝倉駅前店、正門より徒歩2分。スーパー、エースワン朝倉店、正門より徒歩3分）。
- 6月23日（日）：生協カフェテリアをはじめ周辺食堂の多くは閉店となります。ご注意ください。
- 喫煙：高知大学の敷地内は建物の内外を問わず、全面禁煙となっています。ご協力お願いします。

***** 4. 会場案内 *****

